

# 令和8年度版「学力向上ポータルフォリオ(学校版)」【東宮下小学校】

## 学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	国語科においては、「読むこと」の分野を育成する。現状市平均と一番開いているのは「書くこと」の分野であるが、文章を書くためには読む力が必要であるため、今年度は読む力を育成する。 算数科においては、「数と計算」の領域を育成する。思考力が求められる問題において、そもそも四則演算の能力不足による誤答が多いため、すべての問題の基礎となる数と計算の領域を育成することで算数科における全体的な底上げを図る。
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	国語科においては、月曜日のチャレンジ国語の15分を活用し、「読解力プリント」に取り組ませる。推奨学年から2学年ほど下げたものから取り組ませ、問題の解き方を指導するとともに、児童に自分で解けたという達成感を味わわせることを目的とする。 算数科においては、授業時間冒頭5分をパワーアップタイムとし、スピード重視で簡単に解ける計算問題を出题する。方眼が印刷されたプリントで問題の視写から行い、問題を解き、○付けを全体で行い、算数ファイルに綴じる。足し算や引き算から始め、空位のあるわり算等少しづつ学力調査で出題される形式に近づけていく。

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	1 結果分析(管理職・学年主任等) 2 詳細分析(学年・教科担当) 3 分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		調査の振り返り(4月) ↓ 結果から考えられる 児童生徒の実態
結果から考えられる 児童生徒の実態		①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③調査問題を活用した授業

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		↓ ①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経た取組 ④調査結果を活用した授業
結果から考えられる 児童生徒の実態		

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	↓ 学力向上策の 見直し
学力向上策の 見直し		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)